

東北大鬼城句会報

於： 学士会館

<第 16 回> 句会 2008. 1月25日 (金)

嫁が君・新年雑詠

・当季雑詠を含む5句

村上谿聲 選 ◎特選 ◇佳作

◎壁の穴何れの膳か嫁が君 隆 一

※。嫁が君という半ば空想的な季語を、壁の穴の向うに現実の舞台があるかのように提示した。

◎猿曳の人集めたり山の上 俊 知

※参考 猿曳に人集ひをり山の上 ではないか？

◎町駅伝年賀々々の競技場 貞 風

※「町駅伝」という状況設定がよい。

◎飛び跳ねる孫の手を引き初詣 啓 窓

※神経を集中させて孫の相手をしている様子がよくわかる。爺さんは叱らないので、好かれるのだ。

◎年棚の古里の神札古りにけり 如 雨

※一句にはやや定型とおりの古さがあるが、ふるさとの思い出とは、まあこんなところか。

◎すれ違ふ破魔矢の鈴や肩ぐるま 如 雨

※カメラアングルの上手い写真家を見るようです。

◎嫁が君猫人形に一目散 啓 窓

※猫人形を使って、落語とか漫才をやれば笑いが取れそうです。

◎塩の道辿りし鯊の雑煮かな 修 人

※雑煮の句であるが、ことにその具に使われている鯊が塩の道を通って運ばれて来た

ことに思いを致したのであろう。作者のふるさと信州が舞台の小説風俳句です。

◇香合に姿を変へて嫁が君 修 人

◇往来の日向を騒ぐ初雀 修 人

◇息災の他は願はず初詣 修 人

◇人混みを恐れずに行く冬帽子 ㊦ 游 悦

◇湯けむりの途切れし先の寒月夜 ㊦ 游 悦

◇無為ながら至福のときぞ日向ぼこ 游 悦

◇抜け道の幅一杯に冬の月 ㊦ 貞 風

◇滑空をして遠ざかる落葉かな 貞 風

◇雪虫や生まれはいずどこへ行く 貞 風

◇静寂の庭にひびきし初稽古 仲 安

◇獅子舞の囃を耳に昼寝かな 仲 安

◇帰り入る関東平野寒夕焼 隆 一

◇寒紅や滑り仕度の宿出口 隆 一

◇配達少年照れる御慶かな 如 雨

◇胡坐逃る猫の欠伸や初茜 如 雨

◇激動の年のシンボル嫁が君 ㊦ 弁 慶

○幾百の生の声聞く賀状かな ㊦ 如 雨

○初春や故郷の山は凜として ㊦ 仲 安

<村上谿聲作> 一羽翔ちいつせいに翔ち初雀 ㊦/ 睥睨の嘴

猛々し初鴉 ㊦/ 仮名のねの丸く大きく賀状来る ㊦・㊦